

2018(平成30)年度 法学類演習シラバス(掲示用)

授業科目名: 法理学演習		担当教員名[ローマ字表記]: 足立英彦 [ADACHI Hidehiko]	
曜日・時限: 月曜・5限	対象学年: 3・4年	募集人数: 12名	
授業の主題・目標: 正義を語る			
<p>授業内容: 10月22日に行われた衆議院議員選挙では、民進党の議員全員が小池都知事率いる「希望の党」に合流しようとしたところ、「基本政策が一致しない者は排除する」という都知事の発言をきっかけに、「希望の党」、枝野氏率いる「立憲民主党」、どちらにも属さない者の3グループに分かれてしまうという出来事がありました。その結果は周知の通り、希望の党の惨敗、立憲民主党と無所属候補の善戦となりました。</p> <p>政治は無数の諸問題への取り組みであって、その諸問題の正解が何か一つの基本政策から演繹的に導ける、などということはありません。しかし、それぞれの議員のそれぞれの問題に対する具体的な対応の背後には、おそらく何らかの原理や原則があるはずで、そして、政党は党派(Party)であって、すべての原理・原則を包括することはできず、その一部を共有する者の集まりでしかありません。ですので、ひどく評判が悪かったとはいえ、基本政策の一致を求める小池知事の発言に間違いはありませんでした。間違っていたのはそれまでの民進党の政策を捨て、小池人気にあやかるために希望の党の政策を、目をつむって受け入れてしまった多くの前民進党議員でしょう。</p> <p>ところで私達日本人は、上記のような政治の話や、その背後にある原理原則の話や家族や友人の間でほとんど行いません。自分の意見を表明することが、他人との違いの表明となり、その結果学校や職場など、自分の属する集団の中で浮いてしまうことを恐れる、そういった心情を私達が抱いてしまうことが、その理由なのかもしれません。</p> <p>しかしながら、筋を通さなかった民進党前議員が不評を買ったことでも明らかのように、私達は原理原則を全く無意味だとも考えていないようです。そのような原理原則を自由に語り合えるのは、日本では大学という場だけなのかもしれません。この貴重な時間を使って、少し政治や社会の理想を語ってみませんか？</p> <p>来年度の法理学ゼミでは、最初にサンデル『これからの「正義」の話をしよう』を読みながら、政治の理想を語り合いたいと思います。その後、皆さんの希望に応じて、他の本を読むか、それぞれ特定のテーマで皆さんに自由に研究を進めていただき報告をしてもらうかを決める予定です。</p>			
教科書・教材: マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』(早川書房, 2011年)		参考書: マイケル・サンデル『それをお金で買いますか』(早川書房, 2014年)	
関連科目: 法理学・政治思想史		評価の方法: 出席とゼミでの報告・発言に基づき評価します。	
履修上の注意事項や学習上の助言: 本ゼミでは、1年目終了時に短めのレポート、卒業時に卒業論文(ゼミ4単位+卒論6単位=10単位になります)を提出していただきます。卒論は大変と思うかもしれませんが、書き上げれば一生の財産になりますので、ぜひ挑戦してください！過去の卒論は私のWeb(http://law-kanazawa.info/)に掲載しています。質問があれば、いつでも研究室(人社2号館763)に来てください。			
学生からの演習に関する質問への対応方法: 1 随時可能 2 オフィスアワー(曜日:火曜日 時間:12:00~13:00) 3 E-mail(hadachi@staff.kanazawa-u.ac.jp) 4 電話(076-264-5383) 5 その他(オフィス・アワー以外の曜日・時間も、在室時はいつでも対応します。)			
受講者数調整方法: 面接と志望理由書に基づき選抜します。			